

## 平成20年度 福井県公共事業等評価委員会（第1回）議事概要

開催日時 平成20年11月21日（金）9：30～12：30  
開催場所 県庁 特別会議室

### 出席者

- (1) 委員 10名のうち9名出席
- |        |                   |
|--------|-------------------|
| 加藤 辰夫  | 福井県立大学生物資源学部教授    |
| 桑原 美香  | 福井県立大学経済学部講師      |
| 高津 靖生  | NPO法人田んぼの学校越前大野会長 |
| 竹田 裕喜子 | 坂井市教育委員           |
| 福原 輝幸  | 福井大学工学部教授         |
| 水上 聡子  | アルマス・バイオコスモス研究所代表 |
| 薬袋 奈美子 | 福井大学工学部講師         |
| 宮崎 和彦  | 福井商工会議所理事・事務局長    |
| 吉岡 隆治  | 第一織物（株）代表取締役      |
- (2) 事務局（農林水産部） 石塚企画幹、山田技幹、福田森づくり課森林整備室長、  
桶谷農村振興課農村整備室長  
（土木部） 近藤技幹、酒井技幹（防災）、北嶋河川課長、  
橋本港湾空港課長、加藤都市整備課長、西出道路建設課主任  
（産業労働部） 須藤部長、桑原企画幹  
（総務部） 森近企画幹、滝財務企画課長

### 議事概要

- (1) 開 会
- (2) あいさつ
- (3) 会長、会長代理選出  
会長に福原輝幸委員、会長代理に宮崎和彦委員を選出。
- (4) 再評価対象事業の審議  
《 資料 ... 再評価対象事業一覧表、再評価調書（別添資料）ほか 》
- 〔 審議対象事業の抽出について 〕
- 〔 再評価対象30事業のうち、抽出基準に基づき11事業  
（農林水産部1、産業労働部1、土木部9）を集中審議事業として抽出 〕
- （ 会 長 ） 抽出事業は第2回委員会で集中的に審議し、今回はそれ以外の事業について意見の取りまとめを行う。

〔農林水産部評価対象事業について〕

（会 長） では、まず、農林水産部の再評価対象事業について説明を求める。

〔林道事業について〕

〔事務局から農林水産部 1～4の事業内容を説明〕

（委 員） とても時間のかかる事業だが、どういう理由があるのか。

（事務局） アクセスする道路がある場所からしか工事にかかれず、施工工区が限定される。延長も長いので事業期間が長くなってしまふ。

（委 員） コスト縮減対策の中に線形の見直しがあるが、具体的な例を示してほしい。

（事務局） これまでは最短距離を直線的に繋ぐ計画が一般的であったが、現場の地形にあわせて勾配が緩く工事のしやすい線形を採用することで、距離が長くなってもコストを抑えることができる。

（委 員） 林道事業は山林環境への影響も少なくないが、最小限やむを得ないと思う。整備後、林道ウォーク等に活用されているということだが、よいことであり今後もこういう取組みを続けてほしい。

（会 長） 委員の意見も踏まえ、コスト縮減と工期短縮を図りながら工事を進めてほしい。事業としては「継続」と評価する。

〔かんがい排水事業（兵庫用水）について〕

〔事務局から農林水産部 5の事業内容を説明〕

（委 員） 開水路からパイプライン化することにより、管理経費の低減などの効果はどれくらいあるのか。

（委 員） パイプラインを長期的に使用した場合、どれくらいのコストがかかるのか。費用はほとんどかからないという話も聞いているが、想定されることを教えてほしい。

（委 員） 自然環境との調和という点では、水路をパイプライン化することは相反する行動とも考えられるが、環境整備計画等との調整はどうしているのか。

（委 員） 兵庫用水は国事業で整備している十郷用水に繋ぐということだが、道路でいうと幹線は国、次は県、その次は市町という流れ方になるように、十郷用水には兵庫用水以外にも県事業で繋ぐものがたくさんあるのか。

（事務局） 兵庫用水にはポンプ場が6か所あり、現在の維持管理費が約1,200万円かかっているが、今回のパイプライン化によってこの費用は削減される。次回、詳しく説明する。

〔農道整備事業（小浜中部）について〕

〔事務局から農林水産部 6の事業内容を説明〕

- (委員) 総事業費が下がっているが理由は何か。
- (事務局) 現在施工しているトンネル工事の入札差金があったことと、残土を近くのほ場整備に活用することで処理費用を縮減したことにより全体事業費が減ったものである。
- (委員) コスト縮減について具体的に教えてほしい。
- (事務局) トンネル工事で35,000m<sup>3</sup>の掘削土が発生するが、この処理について当初は舞鶴若狭自動車道の盛土として活用する計画であり、20～30kmの運搬経費を見込んでいた。後日、地元で田んぼのかさ上げに土が必要となったため、こちらに利用することになり運搬費が軽減できた。
- (委員) これによって舞鶴若狭自動車道のコストが上がることにならないのか。
- (事務局) 残土の発生は他にもあり、それらの活用も含め調整している。
- (委員) 沿線の今富地区は交通量も多く子どもが歩くのに危険であると感じている。歩道を設置するなどの対応について、地元とも協議のうえ進めてほしい。
- (事務局) 地元や市からの要望事項については可能な対応は行っている。
- (委員) 入札が低かったということだが、工事の質は確保されるのか。
- (事務局) 低入札工事ということで、通常の監督体制とは別に県庁からも現場に行き工事の進捗を確認しており、品質の確保に万全を期している。
- (会長) 次回委員会においては、かんがい排水事業によるパイプライン化について、維持管理に関するコスト、環境・景観との調整、国営事業との関連事業についての説明を求める。事業としては「継続」と評価する。

[土木部評価対象事業について]

- (会長) 続いて、土木部の再評価対象事業について説明を求める。

[道路改良事業について]

[事務局から土木部 1、20～23の事業内容を説明]

[国道305号]

- (委員) 当初の計画はどのようなものだったのか。
- (事務局) 昭和63年の事業着手時の計画では、道口～茂原工区のみ計画だったが、平成元年の玉川での落石事故を受け、平成4年度に左右工区を追加した。
- (委員) 追加事業については、誰が、いつ、どのように決定を行ったのか。
- (事務局) 玉川の落石事故後に緊急点検を行った結果、防災工事では対応できないということで国とも協議し、改築工事で行うこととなった。その際、同じ町内、同じ目的ということで越前バイパスの工区追加という形となった。
- (委員) 追加した当時、当初計画区間の進捗状況はどうだったのか。
- (事務局) 用地交渉などを行っていた。
- (委員) このような工区追加は、特別な場合ということになるのか。
- (事務局) そういふことになると思う。
- (会長) 国道305号(1)および主要地方道鯖江美山線(23)については次回集中審議する。それ以外の3事業については「継続」と評価する。

[ 港湾・海岸整備事業について ]

〔事務局から土木部 17、 18 の事業内容を説明〕

[ 和田港 ]

- ( 委 員 ) この事業は「うみんぴあ大飯」の整備という大きな事業に関連しており、うみんぴあの事業の見通し等も踏まえないと議論できないと思う。
- ( 会 長 ) 次回委員会で報告を求める。

[ 敦賀港海岸 ]

- ( 委 員 ) 完成年度が7年も延長されているが、なかなか進捗しない背景は何か。
- ( 事務局 ) 侵食対策は自然現象を相手にする事業であるため、シミュレーションなど事前の準備に時間を要する。また、離岸堤整備、砂浜整備と段階的に実施するなかで、前の工事の影響、効果を検証しつつ次の工事に入ることが必要となる。
- この地区は海水浴客が多く、背後に人家も多数あることから、入り込み客の状況や地元住民の理解等を考慮しながら順次着手しており、どうしても時間がかかる。
- ( 会 長 ) このような事業の場合、例えば離岸堤を1つ造ることによって砂浜の状況がどうなっていくのかなどを見ながら、構造見直し等の対策を進めていると思うが、どの段階でチェック、見直しをするといったフローを作って計画段階から盛り込んでおかないと、後になってなぜ事業期間が延びたのかわからないということになる。その点についてももう少しわかりやすく示してほしいと思う。
- ( 委 員 ) 砂浜がいつから削られてきたのか、原因は何かがわからないとこの事業が有効な対策となるのか判断できないのではないかと。やっても無駄になるなら別の手段を考えないといけない。
- ( 事務局 ) この箇所は地形が入り組んでおり、潮の流れの影響により砂が取られたことと、河川からの砂の供給がないことによるものと考えられる。
- 時期については、過去の写真等から昭和40～50年代にかけて侵食が進んだと判断している。
- ( 会 長 ) 委員から指摘のあった点について、次回の委員会で説明を求めることとし、そのうえで評価する。

[ 流域下水道事業について ]

〔事務局から土木部 19 の事業内容を説明〕

- ( 委 員 ) この事業は抽出案件となっているが、次回委員会において汚泥の処分内容とそれにかかる費用について示してほしい。
- ( 委 員 ) 水処理施設を2系列分減らす理由は何か。
- ( 事務局 ) 人口の減少に基づく計画の見直しである。
- ( 委 員 ) 将来、人口が減少すると見込んでいるのか。
- ( 事務局 ) 従来計画を実際の人口推移を踏まえて見直した結果、将来推計人口が減少したということである。

[ 河川改修事業について ]

- ( 会 長 ) 時間の関係上、説明および審議は次回委員会で行うこととしたい。
- ( 委 員 ) ひとつ要望したいのだが、河川事業について工事を見ても何をしているのかが全くわからない。周辺住民の方々からもわからないという声を多く聞いている。例でよいので基本的な工事のやり方、進め方というのを次回教えてほしい。
- ( 会 長 ) 次回委員会において提示願う。

[ ダム事業について ]

[ 事務局から産業労働部 1、土木部 14 の事業内容を説明 ]

- ( 委 員 ) 吉野瀬川ダム事業の審議について、次回どのような項目の説明があるのか。
- ( 事務局 ) 工業用水について、越前市、鯖江市の需要量見込みや水のリサイクルによる需要の変化の状況などを説明したいと考えている。
- ( 委 員 ) 規模の縮小、中止ということもあり得るのか。
- ( 事務局 ) 治水上、ダムの必要性がなくなることはないが、工業用水の費用対効果について検討していきたい。
- ( 委 員 ) 越前市のマスタープランにも書かれているが、このあたりは元々田んぼであった場所が土地開発されているため洪水が起きやすいそうである。交通事情等も考慮しこれ以上宅地を広げないプランとなっており、これらの兼ね合いを考えた事業にしてほしい。
- 費用についても、例えばダム建設により河川からの土砂流出が減少し、海浜がやせてしまうといった場合に、現状では海岸工事等の事業費は費用の計算に含まれていない。これらの点も踏まえ、現状の事業規模、事業費でよいのか考えるべきではないか。
- ( 委 員 ) ダム事業については最近、中止や見直しの事例をよく耳にする。なぜ中止に至ったのか、福井県の事業とどの部分が違うのか、についてわかる資料があるとよい。
- ( 会 長 ) 各委員からご意見のあった項目については、次回委員会において事業内容説明と併せて報告を求める。

(5) 閉 会